

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和4年3月31日時点】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ				所管部室(課)名		環境部 環境政策室			
所在地		〒565-0826		吹田市千里万博公園4番3号 吹田市資源リサイクルセンター内							
設立年月日		平成4年3月16日(財団法人設立)		代表者職・氏名		理事長 門脇 則子					
基本財産		963,280,000円		①本市出資金(本市の出資割合)		円(%)					
				②本市出捐金(本市の出捐割合)		538,800,000円(約56%)					
設立目的	地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。										
事業内容	(1)啓発・普及活動等に関する事業 (2)市民研究等に関する事業 (3)講演・講座の開催等教育に関する事業 (4)その他本法人の目的を達成するために必要な事業				(具体的な事業内容) (1)市民工房の運営 (2)市民の不用品の交換、物流を促進する事業 (3)環境問題及び環境保全活動推進に関する市民・事業者向け啓発事業 (4)調査研究に関する業務 (5)展示等に関する事業 (6)施設の使用許可及び使用料の徴収に関する業務 (7)視察・見学者の対応 等						
			合計(市職員及び元市職員以外も含む。)						合計(元市職員以外も含む。)		
			うち市職員		うち元市職員					うち元市職員	
役員数(人)	理事 (取締役)	常勤	1	0	1	職員数(人)	常勤	5	0		
		非常勤	9	2	2		再任用(※1) 常時勤務	0	0		
	監事 (監査役)	常勤	0	0	0		再任用(※1) 短時間勤務	0	0		
		非常勤	2	0	1		非常勤	4	0		
65歳以上の役員数(※2) (人)		5		2	臨時 雇用員	33					
評議員 (人)		9	1	1	65歳以上の職員数 (※2)	21	0				
元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。(いずれかに○)						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											
元市職員に対して退職金を支給している。(いずれかに○)						該当 ・ <input checked="" type="radio"/> 非該当					
【該当する場合のみ記載】内容											

※1 再任用職員とは、60歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和3年度決算】

団体名		公益財団法人 千里リサイクルプラザ		所管部室(課)名		
				環境部 環境政策室		
財務状況(円)	損益計算書	総収入	70,658,989	貸借対照表	資産の部合計	1,218,893,309
		(うち市受入金)	49,738,610		負債の部合計	12,632,970
		(その他)	20,920,379		(うち有利子負債)	0
		総費用	66,730,426		正味財産合計	1,206,260,339
		経常損益	3,928,563		(うち一般正味財産)	25,604,339
		当期損益	3,928,563			
市から団体への支出(円)	主要内容、算出根拠等					
	フロー	補助金				
		委託料				
		指定管理料	49,738,610	吹田市資源リサイクルセンター指定管理委託料		
		その他				
		計	49,738,610			
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金(出損金)	538,800,000			
		その他				
		計	538,800,000			

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間: 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び 人事管理	規程等を適切に整備している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に即応した規程整備に努めている。 ・平成20年度から続く嘱託職員での運営体制を維持。 ・役員は理事10名、監事2名で構成。 ・令和3年度は嘱託職員2名を公募による競争試験により公正に採用。 ・吹田市再任用職員給与水準を参考に嘱託職員給与額を設定。 ・当財団は社会経験を有する人材を採用しているため、接遇や人権研修は自己啓発及び職場のOJTを基本としている。 (参考)専門性の一層の向上を図るため、次年度より事務局職員に環境社会検定試験(eco検定)の資格取得を義務付け。
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	◎	
	職員研修の充実に努めている。	○	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次中期計画に沿い事業の本質的な見直しを図り、あるべき姿からバックキャストによる必要な手順を踏んだ事業運営を実施。 ・市民アンケート他による意見を重視し事業運営の見直しを実施。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度～令和8年度を対象とした第2次中期計画を策定。 ・次年度からの環境助成金獲得事業の構築に向けた検討開始。 ・コロナ禍の中、環境啓発につながる新たなくるくる体験を実施。 ・情報紙の内製化の継続、中間時の会計士監査の廃止。 ・20年、及び30年の国債による安定した資産管理。 ・年度内4回の監事監査や決算時の会計士監査の実施。 (参考)次年度から環境学習施設研究専門家による当財団の事業運営に関する提言と監査依頼。
	自主財源の確保に努めている。	△	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・当財団HPに経営状況、事業計画を公開。 ・当財団HPに役員及び評議員名簿、理事会や評議員会の議事録を公開。 ・HP、Facebook、twitter、及び吹田市報、インフォレストすいた展示会で情報発信。 ・個人の許可を得て収集したメールアドレスや、役員、評議員、職員のマイナンバーの情報管理を徹底。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間:令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和3年度目標	令和3年度実績	(参考) 令和2年度実績
	成果指標			
啓発・普及活動に関する事業(市民工房の運営)	市民工房見学者及び実技指導者数の拡大	見学者数拡大でリユース・リメイク啓発普及	コロナ禍で3密対策と少人数グループ見学	コロナ禍の影響を極力排除した普及
	市民工房見学者数	対前年比増	3,793名 (前年度比21.5%増)	3,122名
啓発・普及活動に関する事業(脱温暖化に関する事業)	環境啓発動画コンテストの一層の普及	コンテストの認知向上と参加者数の増加	参加作品の質・数の充実	参加作品の質・数の充実
	応募作品数	対前年比増	応募42作品 (前年度比23.5%増)	応募34作品
展示等に関する事業(らっくdeフリマ)	認知度向上による事業安定を通じた資源循環の活発化	来室者数の拡大を通じた資源循環の活性	来室者増の為の広報の充実	来出者増の為の広報の充実
	来室者数の拡大	対前年比増	5,002名 (前年度比89.0%増)	2,646名

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
プラザの全事業	新型コロナウイルスの変異株の出現等により、令和3年度も令和2年度と同様、事業計画で策定した各事業を全うできる状況にない中、引続き対応策を考えながら可能な限りの事業運営に努めた。特にリモート対応等の導入や小人数制限等により事業の継続に努めた。ただし海外からの見学等も含めて、新型コロナウイルスのまん延抑制の徹底が前提となる事業も多く、さらなる工夫の検討等を行った。	さまざまな工夫を通じて、実施した事業については、ほぼ全てにおいて令和2年度の実績を上回る成果となっており、アンケート等を見ても総じて高い評価を受けている。

(3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

<p>今後の指定管理に向け、当財団の事業の根底にある環境問題の知識を深めて、より有効な啓発活動に努めるため、嘱託職員には環境社会検定(eco検定)の勉強及び資格取得を令和4年度から実施していく。また第2次中期計画で示した当財団の将来(令和8年度)のあるべき姿を職員で共有し、そのために必要な改革、変革に聖域を設けず取り組んでいく。資産の運用については、複数の証券会社から多くの提案を得ているが、未だ安全性と収益性を兼ねた運用方法については答えが見つかっておらず、リスクヘッジの出来る運用では現行の利息収入を上回ることができない状態である。20年国債が償還まで10年、また30年国債については半分以上の期間を残している現在、拙速に運用方法を変更することは得策ではないと考えざるを得ない。</p>
--

令和4年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間: 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで】

団体名	公益財団法人 千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部 環境政策室

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	◎	資源リサイクルセンター開設時より管理運営を担ってきた実績やノウハウを活用し、環境スクール、市民研究員による研修講座など、団体独自の事業を実施しており、来館者数の拡大やサービスの提供内容の充実を図っているため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	◎	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

平成29年度から令和3年度までの5年間を計画期間とする中期計画書を団体において策定し、PDCAサイクルに基づく事業評価と進行管理を行っている。
 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、オンラインにより、施設の魅力向上に資する取組を行っている。
 令和元年度以降は、これまでの取組の充実化や新たな取組の実施により、若年者層の取り込みや新たな来館者を獲得している。
 以上のことから、団体の自己評価は妥当であると判断できる。今後は、認知度の向上や集客力の強化に加え、来館者が、環境問題を自らの問題として捉え、日常の行動を変化させるための啓発・取組にさらに注力されたい。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

(公財)千里リサイクルプラザは、資源リサイクルセンターの運営団体として、府、吹田市及び137社(者)の民間団体等からの出捐金を受け設立され、本市からも538,800千円を出捐している。
 平成4年のセンター開設時より、管理運営を担っており、平成18年度の指定管理者制度導入後は、市からの受託事業に加え、出捐金の運用益を活用した様々な自主事業を実施し、指定管理者として長期間にわたり、安定的な運営を行ってきた実績がある。
 団体の設立経緯や、市との連携体制を維持しながらの管理運営や事業展開を行ってきた実績を踏まえ、今後も積極的に団体との連携の強化を図るものとする。